

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 16 日現在

機関番号：62618
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2008～2011
 課題番号：20520430
 研究課題名（和文） 明治期国語調査委員会資料と『日本言語地図』『方言文法全国地図』による分布解釈研究
 研究課題名（英文） Linguistic Geography Research through the reports by the National Language Survey Committee in Meiji period, "The Linguistic Atlas of Japan", and "The Grammar Atlas of Japanese Dialects"
 研究代表者 吉田 雅子（YOSHIDA Noriko）大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・時空間変異研究系・プロジェクト奨励研究員
 研究者番号：50399490

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：方言，方言学，方言地理学，言語地理学，方言地図，言語地図

1. 研究計画の概要

日本全国規模の方言調査資料には、明治期の国語調査委員会が行った『音韻調査報告書』『音韻分布図』（1905(明治 38)年刊行）、『口語法調査報告書』『口語法分布図』（1906(明治 39)年刊行）と、国立国語研究所が行った『日本言語地図』（全 6 集，1966(昭和 41)-1974(昭和 49)年刊行）、『方言文法全国地図』（全 6 集，1989(平成 1)-2006(平成 18)年刊行）がある。これらを用いて、全国レベルでの方言分布の通時分析と総合的解釈を行う。歴代、全国規模の方言調査を実施し、音韻・語彙・文法の各分野にわたって全国版言語地図を刊行しているという点で、日本は世界に類を見ない。全国方言調査実施の学史的背景や調査結果が社会に与えた影響なども分析要素に取り入れつつ、通時的にも分野的にも多大な方言調査資料を用いて分布・解釈研究を行い、今後実施される全国方言調査・言語地図作成に備え寄与することをめざす。

期間中には以下の作業を実施する。

- (1) 対象資料の記述研究とデータベース化
- (2) 分布分析と解釈研究（『口語法分布図』『方言文法全国地図』対照地図・『音韻分布図』『日本言語地図』対照地図の作成と、比較解釈研究）
- (3) 報告書作成とウェブ公開。

2. 研究の進捗状況

上記 1 で示した、期間中に実施する作業に即して述べる。

「(1) 対象資料の記述研究とデータベース化」については、未見・未入手資料の探索調

査のためにこれまでの 3 年間で約 20 日人の出張を行っている。調査先は岩手県立図書館、一関市立博物館、秋田県立図書館、筑波大学図書館、八ヶ岳大泉図書館、金田一春彦ことばの資料館、島根県立図書館である。このほかにも国立情報学研究所の図書館間文献複写サービス（NACSIS-ILL）も利用して、各館の収蔵資料や蔵書の中から明治期国語調査委員会資料を探索し、重要なものは撮影・印影で資料を得た。調査を進める中で、これまで存在がほとんど知られていなかった直筆資料等も入手することができ、現在その内容についての詳細な分析と紹介の準備を進めている。収集資料のデータベース化についてはこれまでの 3 年間で約 194 日人を投入して電算データ化を進めた。

「(2) 分布分析と解釈研究」については、研究メンバーの 3 人で随時研究打合会を開催しながら進めている。『口語法分布図』と『方言文法全国地図』、『音韻分布図』と『日本言語地図』のデータ整備を進め、順次その対照地図を作成し、内容についての検討を行っている。このほかにも国立国語研究所でかつて実施した全国規模の各種方言調査データを整備し利用しながら、分布・解釈研究を進めている。

「(3) 報告書作成とウェブ公開」については、研究初年度より本課題用ウェブサイトを開設し、順次データや研究成果を公開している（<http://socling.org/kogoho/>）。これまでの 3 年間で研究メンバーによる成果発表としては論文 26 件、学会発表 6 件、図書 8 件がある。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している.

(理由)

上記2で述べたとおり, ほぼ当初の予定通りに計画が進み, 成果発表も複数件実施している.

4. 今後の研究の推進方策

これまでと同様に, 当初の研究計画に沿って進行させていく. 研究最終年度となる2011年度にはさらに作業従事するエフォートを多くして, 報告書に盛り込む内容の質量ともの拡充をはかる.

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- (1)小西いずみ, 竹田晃子, 本調査に向けた準備調査結果の分析—音韻, 方言の形成過程解明のための全国方言調査「事前研究」報告書, 査読無, 2011年, pp19-35
- (2)新井小枝子, 吉田雅子, 本調査に向けた準備調査結果の分析—語彙, 方言の形成過程解明のための全国方言調査「事前研究」報告書, 査読無, 2011年, pp37-157
- (3)鎌水兼貴, 『方言文法全国地図』における話者の年齢差にあらわれる文法変化, 日本語学会2010年度秋季大会予稿集, 査読無, 2010年, pp215-222
- (4)吉田雅子, 「関東及隣接県方言調査書」について—内容と紹介—, 山梨ことばの会会報15, 査読無, 2009年, pp1-19
- (5)竹田晃子, 明治帰国後調査委員会による音韻口語法取調の概要と第2次調査資料の分析, 日本方言研究会第87回研究発表会発表原稿集, 査読無, 2008年, pp61-68

[学会発表] (計5件)

- (1)鎌水兼貴, 松丸真大, 小西いずみ, 方言調査データのXMLによるデータベース化, 第88回人文科学とコンピュータ研究会, 2010年10月31日, 国立国語研究所
- (2)鎌水兼貴, 『方言文法全国地図』における話者の年齢差にあらわれる文法変化, 日本語学会2010年度秋季大会, 2010年10月24日, 愛知大学
- (3)吉田雅子, 全国方言準備調査における語彙項目の結果分析と考察, 共同研究プロジェクト「方言の形成過程解明のための全国方言調査」研究発表会, 2010年3月23日, 国立国語研究所
- (4)YARIMIZU Kanetaka, Language Change from the Viewpoint of Distribution Patterns of the Standard Japanese Forms, 東京

外国語大学グローバルCOE国際シンポジウム

“Corpus Analysis and Diachronic Linguistics”, 2010年3月2日, 東京外国語大学

(5)竹田晃子, 明治帰国後調査委員会による音韻口語法取調の概要と第2次調査資料の分析, 日本方言研究会第87回研究発表会, 岩手大学

[図書] (計5件)

- (1)吉田雅子 (共著12名中12番目), 朝倉書店, 日本語ライブラリー 方言学, 2011年, pp32-55
- (2)鎌水兼貴 (共著53名中13番目), 三省堂, 都道府県別全国方言辞典CD付き, 2009年, pp90-97
- (3)吉田雅子 (共著53名中20番目), 三省堂, 都道府県別全国方言辞典CD付き, 2009年, pp138-145+pp389-430
- (4)竹田晃子・吉田雅子, 国土社, まんがで学ぶ方言, 2009年, 119p
- (5)竹田晃子・吉田雅子 (共著8名中2番目と4番目), フレーベル館, 方言と地図, 2009年, 84p

[その他]

課題用ホームページ

「明治期国語調査委員会資料と『日本言語地図』『方言文法全国地図』による分布解釈研究」

<http://socling.org/kogoho/>